

おつきさまかぞえうた
-満-



R-18

NG

無断転載禁止/AI学習禁止

Do not reupload my art

Do not use my art
for AI training

兄貴漢堂/tokaya



「ああ、」

「調子はどう?」

「いんばんは。」

「よろこぶね。」

「気をつけて。」

「また、
会いに来るよ。」

「おやすみなさい。」

「準備はいい？」

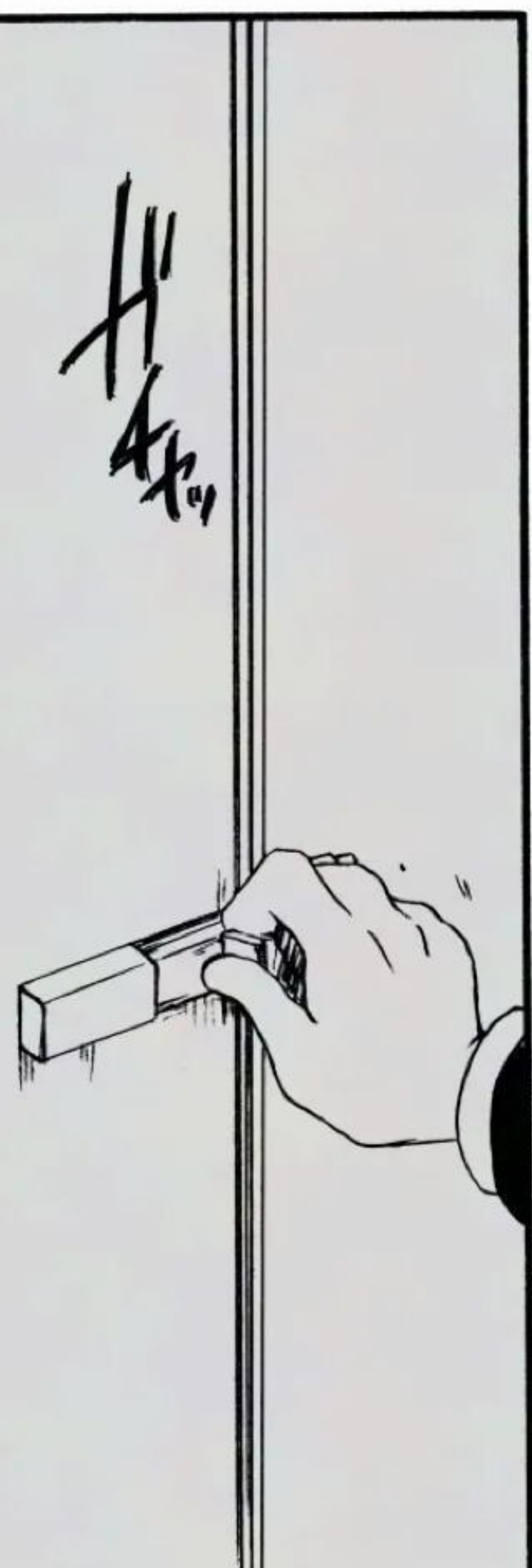
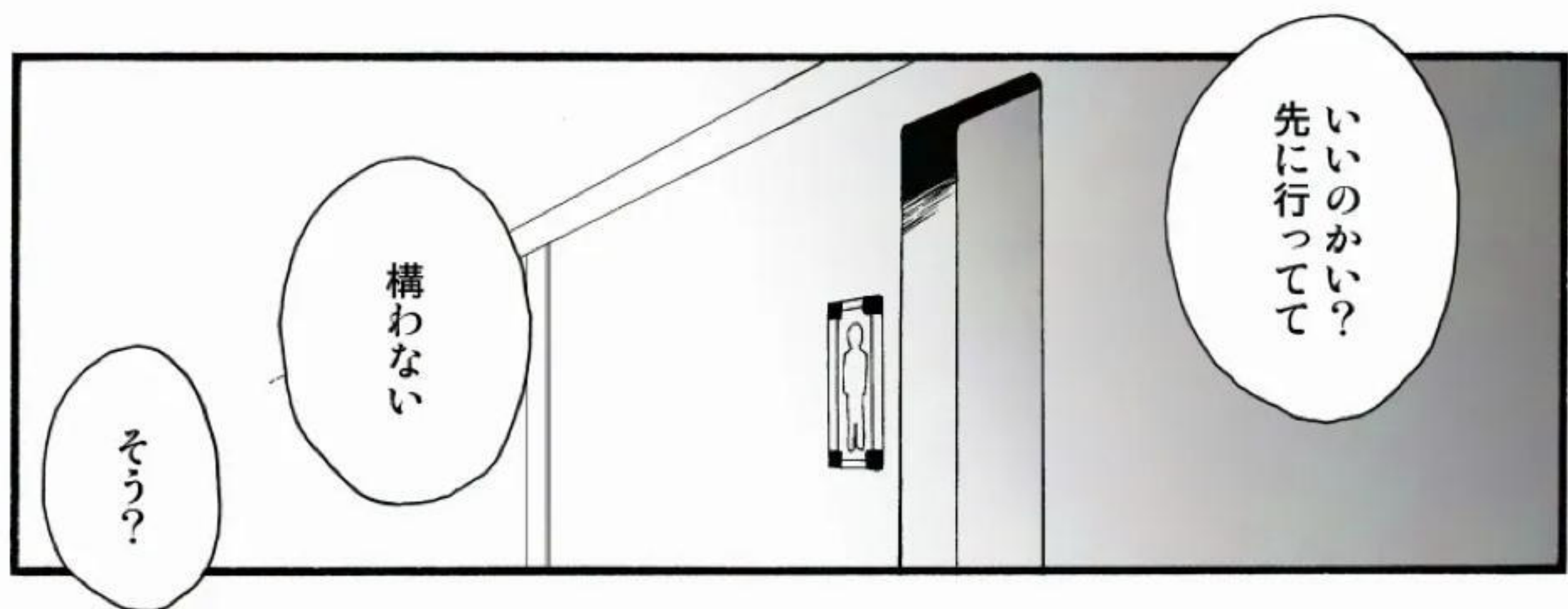
「やあ、

君は確か
村上君だったかな？

これから
ヨロシク。



おつきさまかぞえうた
-満-

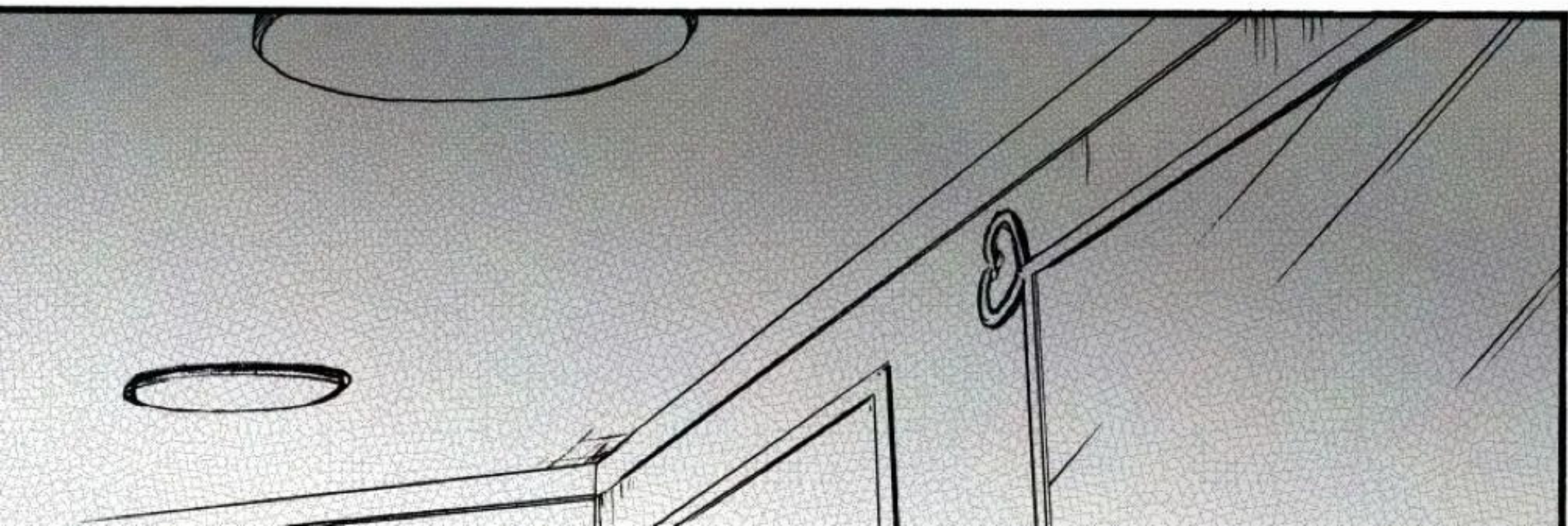






11月初旬、夜

初めて人と
肌を合わせる行為を
体験した。





男の子でも
感じる場所は
あまり変わらない
みたいだね

ここ、
気持ちいい
のかい？



それとも、
君が変わってる
のかな

同性に
触られて
こんなになるって

そういう嗜好で
なければ
珍しいって聞くよ

そりやあ、
変だ。

変だ。

普通に
変態だろ…

この状況が
異常なもの

良くない事だと
いうのも
わかっているのに



















—大丈夫？

痛くない？

って
これは

ちよつと
弄っただけなのに

もうこんなにな
つちやってるん
だもんね

聞くまでも
ないか









っ...これ...
何っ
っは...

っあ、
あ

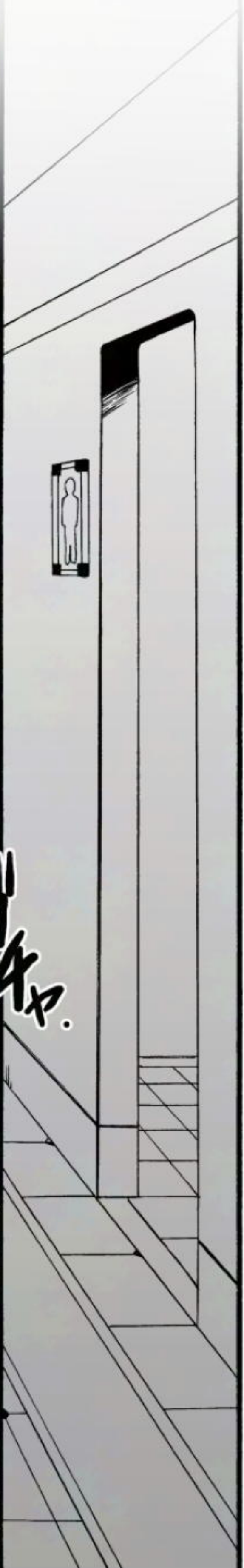
あ
あ、あ...
あっ







ヒヤッ.





ファルロスに
良く似た声

同じ匂い

なくして
初めて気付いた

ずっと
共にあった気配

けれど
どんなに
同じもののように
思えても

あいつは
望月綾時という
同級生で、

それ以外は、
俺の主観でしかない。

「また」とは
云ったものの

以降は
旅行だ何だと
行事が続き、

彼との
個人的な接触は
それきりになった。





思い当たってみれば

それはごく
単純な理由だった。



そして

それだけに





始末に負えないものだった。



ああ

よ
か
っ
た

要約：
比較的真っ当だった主人公が、
勢い余って立派なきちがいに
クラスチェンジする話。

